

国連大学長が「国際化」語る

神大で講演会

次代を担うグローバルな人材の育成を目指す神奈川大の横浜キャンパス（横浜）

市神奈川区で19日、国連大学学長のデイビッド・マローン氏らを招いた講演会「世界・日本・地域の架け橋に」が開かれた。高校生や保護者ら約280人が参加し耳を傾けた。基調講演では、国連事務

次長でもあるマローン氏が「国際社会の直面する課題」



と国連の役割」と題してスピーチ。「世界中の大学で急速に国際化が進んでいる一方で、日本からの留学生が減っているのは大きな課題」と指摘し、「特にアジアは国際的な競争が激しくなっている。その中で何ができるかを考えていくのが大事」と話した。

トークセッションでは、マローン氏と、元国連大使で神奈川大の学長特別顧問西田恒夫氏が「国際人に求

められること」をテーマに議論。西田氏は「国連は株主総会で、加盟国は物言う株主のような関係。紛争問題などで国連を批判すべき部分もあるが、加盟国のわれわれにも責任がある」と語った。写真。

神奈川大では、2020年4月に「国際日本学部」が新設され、翌年には同市西区に開校するなどとみ

められること」をテーマに議論。西田氏は「国連は株主総会で、加盟国は物言う株主のような関係。紛争問題などで国連を批判すべき部分もあるが、加盟国のわれわれにも責任がある」と語った。写真。

（山岡 翔平）